

2024年2月6日

2024年日本農業史学会研究報告会の開催案内

主催 日本農業史学会
共催 東北大学大学院農学研究科

日本農業史学会会員各位

前略 時下ますますご清祥のことと存じます。

先にお伝えしておりますように2024年の日本農業史学会研究報告会は対面形式（シンポジウムのみZoom中継あり）で開催します。ついては下記にて当日のプログラムを案内します。また久しぶりに懇親会を予定しています。多数の方の参加を期待しています。

敬具

記

日時：2024年3月29日（金）9：00－18：00（受付：8：30より）

午前：個別報告（9:05-12:25）、午後：大会シンポジウム（13:30-17:15）、総会（17:15-18:00）

場所：東北大学農学部・青葉山キャンパス（「青葉山コモンズ」2階の第5講義室および第9講義室）（添付の地図、もしくは下記の東北大学の関連ページを参照下さい）

アクセス [東北大学 大学院農学研究科・農学部 \(tohoku.ac.jp\)](https://www.tohoku.ac.jp/)

講義室 https://asset.tohoku.ac.jp/outside_user/rooms_info/facilitylist/page/27/

資料代：500円（領収書が必要な方は受付で申しつけ下さい。）

【I】個別報告（9：00～12：25）（1報告あたり、40分（報告＋質疑））

会長挨拶：9:00-9:05

会長 白木沢 旭児（北海道大学）

【第1会場（第5講義室）】

第1報告：9:05-9:45

「近世における農書の同時代的な位置付け—『会津農書』を例に—」

報告者 渡部 昌平（京都大学大学院）

座長 阿部 英樹（中京大学）

第2報告：9:45-10:25

「農政当局の第一次大戦へのまなざし—農商務省臨時産業調査局及び臨時国民経済調査会に着目して—」

報告者 埴 靖幸（政策研究大学院大学）

座長 小濱 武（沖縄国際大学）

第3報告：10:25-11:05

「日高国浦河郡・赤心社の設立当初の事業活動（1880～1895年）

—開拓初期の北海道における農業会社の役割—」

報告者 藤田 葵（京都大学大学院）

座長 白木沢 旭児（北海道大学）

第4報告：11:05-11:45

「社寺教会有地の農地改革—なぜ農林省は方針を一転させたのか—」

報告者 玉 真之介（帝京大学）

座長 伊藤 淳史（京都大学）

第5報告：11:45-12:25

「近代における稲種産業の展開と構造—富山県砺波市を事例に—」

報告者 阿部 希望 (宮城大学)

座長 齋藤 邦明 (東洋大学)

【第2会場 (第9講義室)】

第1報告：9:05-9:45 (空き)

第2報告：9:45-10:25

「A.D.テアの農場経営における問題関心と実態—『私のメークリン農場史』を中心に—」

報告者 畑岡 孝哉 (京都大学大学院)

座長 藤原 辰史 (京都大学)

第3報告：10:25-11:05

「嗜好品としてのタバコ製品を描く上での研究課題の素描

—品種という視点を手がかりに—」

報告者 戸田駿太郎 (セイミヤ株式会社)

座長 足立 芳宏 (京都大学)

第4報告：11:05-11:45

「バングラデシュにおける女子就業の史的展開とその意義」

報告者 藤田 幸一 (青山学院大学)

座長 湯澤 規子 (法政大学)

第5報告：11:45-12:25

「江戸時代における民衆の「天ぷら」受容に関する江戸・上方間の地域的差異」

報告者 ペ ジョン (京都大学大学院)

座長 池本 裕行 (福井県立大学)

(昼休み：12:25-13:30)

【Ⅱ】シンポジウム (13:30~17:15)

戦後日本農業・農村における技術革新の歴史的経験

—人びとはテクノロジーに何を託したのか—

司会 藤原 辰史 (京都大学)

趣旨説明：13:30-13:35

板垣 貴志 (島根大学)

第1報告：13:35-14:15

「戦後日本の稲作における農民的機械化の展開 (仮)」 報告者 芦田 裕介 (神奈川大学)

第2報告：14:15-14:55

「戦後農村における家庭電化という経験 (仮)」

報告者 岩島 史 (京都大学)

第3報告：14:55-15:35

「戦後の和牛改良と家畜人工授精—使役牛から肉牛へ— (仮)」

報告者 板垣 貴志 (島根大学)

(休憩) 15:35-15:45

コメント1：15:45-15:55

瀬戸口 明久 (京都大学)

コメント2：15:55-16:05

友松 夕香 (法政大学)

質疑応答 16:05-17:15

【シンポジウム趣旨説明】

本年度の日本農業史学会大会シンポジウムでは、戦後日本農業・農村における技術革新の歴史的経験について議論を試みたい。昨今では、日本経済が長く停滞するなかで、技術革新の必要性が声高に叫ばれ続けている。日本農業の現場においても、スマート農業が推奨され、ロボット技術や情報通信技術を活用した、省力化や精密化、高品質生産が目指されている。

歴史を顧みれば、技術革新の用語は、1956（昭和 31）年の『経済白書』に登場した。農業機械化が急激に進展しつつあった高度経済成長期。人びとは、農業機械のような新しいテクノロジーに大きな期待を抱きながら、時に翻弄された。いったい当時の「人びと」は、テクノロジーに何を託していたのか。この歴史的経験を、今日改めて議論する意義はあろう。

一般に、高度経済成長期といえ、国民一丸となって経済成長に邁進した時代イメージが人口に膾炙している。しかし、実際にはテクノロジーに託す政府の政策意図や企業の思惑、各農家の思いには相違が存在し、「人びと」の間には、矛盾や齟齬、意図と結果の乖離などがあつた。本シンポジウムでは、その巨大な技術革新による変化のプロセスを紐解き、丹念に紡ぎ描くことを試みたい。

【Ⅲ】 総会（17：25～18：00）

【Ⅳ】 懇親会（18：30～20：30）

研究報告会終了後、会場と同じ建物にある東北大学生協の「みどり食堂(青葉コモンズ)」にて懇親会を持ちます。会費は一般 6000 円、学生 2500 円です。

【Ⅴ】 その他

・研究報告会の翌日の3月30日(土)から31日(日)にかけ同じ東北大学農学部で日本農業経済学会が開催されます(参加費：一般 4000 円、学生会員 3000 円)。今回は同学会百周年記念大会として一日目に4つの特別シンポジウムが設けられますが、その中に「歴史から農業経済学を照射し未来を展望する」と題した農業史関連のシンポジウムが行われます(特別シンポジウムⅢ：13:30～15:10：青葉山コモンズ及び環境科学研究科棟)。座長は伊藤淳史さん(京都大学)、報告者は小島庸平さん(東京大学)、藤原辰史さん(京都大学)、湯澤 規子さん(法政大学)、コメンテーターは野本京子さん(東京外国語大学)です。詳しくは [2024年度日本農業経済学会大会](#) を参照ください

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

(連絡先) 〒606-8502：

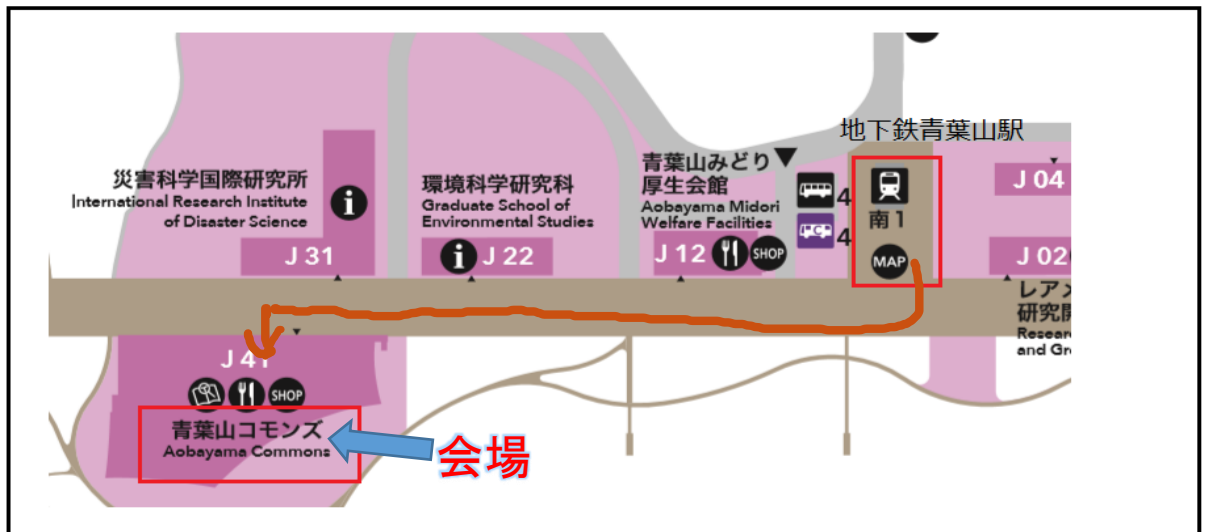
京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel：075-753-6184(足立)、Fax 075-753-6191

東北大学・青葉山キャンパス・青葉山 commons までのアクセスマップ

★仙台駅から地下鉄東西線にて青葉山駅まで10分、同駅下車、南1出口より徒歩約10分です



青葉山コモンズ会場(2F第5講義室)見取り図

